

羽沢南町内会の現状について

羽沢南町内会会長
和田勝己

1 町内会環境の変化

① 町内会員増加期

羽沢南町内会は昭和37年12月1日に創立されました。創立当時周辺のほとんどは畑や林に覆われており、会員数は約60世帯でした。昭和37年以降大企業による大規模宅地開発や道路の整備により、会員数が年々多くなりました。平成年代に入ると、鉄道路線の開通を見込んでマンション等集合住宅が多く建設されるようになり、会員数は更に多くなりました。

現在の会員数は1,250世帯ですが、地域開発の進展により住民が増加傾向にあることから、会員数は今後ますます多くなると思っています。

羽沢南は畑や林を切開いてできた新興住宅地であるため、緑も多く静かです。もののどかな地 chounaikaino 域です。しかし、長い間横浜、上星川へ行くにも公共交通機関はバスのみであり、また、日常品を購入するにもお店らしいお店や、飲食店が少なかったことから交通の利便性、生活の利便性の悪い地域として横浜でも有名な場所でした。

② 鉄道路線の開通、駅前再開発

令和元年11月30日、相鉄・JR直通線が開通し、同時に「羽沢横浜国大駅」が開業しました。令和5年3月18日には相鉄・東急直通線が開通し、交通の利便性は大幅に向上しました。これらの開通により羽沢横浜国大駅から渋谷駅まで32分、品川駅まで29分で行けるようになりました。

駅前再開発により、様々な施設が整備されることになっており、今年の秋頃開業の計画です。

- ・ 高層マンション（357戸）
- ・ 各種商業施設（物販店、飲食店、サービス店、クリニック、子育て支援施設等）、
- ・ 情報発信拠点の整備（大学活動支援施設、農業活動支援施設）
- ・ 地域交流拠点の整備（コミュニテイプロムナード）

これらの施設の整備により、生活の利便性が大幅に向上することになります。

羽沢南は、鉄道路線の開通、駅前再開発以前と比較し、交通の利便性、生活の利便性が大幅に向上し、生活環境は大きく変わりましたが、これら以上に大きく変わったものがあります。それは、住民の気持ちであります。住民の気持ちが大きく変わりました。これまで長い間、羽沢は横浜のチベットとか、横浜の奥座敷

と言われていましたが、今では今日のランチは渋谷か原宿ということも夢ではなくなりました。

③ 今後の羽沢

鉄道路線の開通、駅前再開発により交通の利便性、生活の利便性が大幅に向上し、生活環境は大きく変わりました。今後情報発信の拠点となる大学活動支援施設や農業活動支援施設、地域交流の拠点となるコミュニティプロムナードが本格的に活動するようになった場合、地域全体が活性化され、より多くの新住民の誕生や周辺地域からの集客など賑わいが生まれてくることを大いに期待しています。

駅周辺の市街化調整区域は、住宅等の建設が制限されていますが、将来発展が大いに期待できる地域として、現在土地利用の在り方について検討が行われており、今後駅周辺地域の開発促進が考えられます。

地域開発により、交通の利便性、生活の利便性は大幅に向上しましたが、その反面、地域の治安・環境の悪化が懸念されています。特に駅周辺での放置自転車・自動車問題が指摘されており、これらを防止するため現在連合町内会と連携し、定期的に駅周辺のパトロールを実施しています。

2 町内会の主な事業活動

① 交流の盛んな活気のあるまちづくり

近年住民の生活意識が変わり、地域社会における住民同士の交流が少なくなり、連帯感も希薄になってきています。

このように住民同士の交流が少なくなっている地域を、より住みよくするためには、コミュニティ作りが極めて重要です。このコミュニティ作りについては、身近な近所づきあいを基本としている町内会が核となって推進していく必要があると考えています。

町内会は、夏の盆踊り大会、福祉まつり等多くの住民が交流できる事業について積極的に取り組み、活気のあるまちづくりを推進していきます。

② 防災・防犯対策

日本列島は、いつ、どこで大地震が発生してもおかしくない状況にあります。地震の発生を防ぐことはできませんが、地震が発生した場合その被害を少なくすることは可能であり、そのためには日頃の備えと訓練が極めて重要です。

町内会は、連合会主催の防災訓練への参加や、町内会独自の防災訓練を実施する他、平時から水や保存の効く災害時に必要な物資を備蓄しておく等、防災意識

高揚のための施策に取り組んでいきます。

また、防犯対策として夜間における犯罪を防止し、歩行者が安心して通行できるよう防犯灯を整備していきます。現在定期的を実施しているパトロールの他、児童の登校時の安全を守るため、毎日見守り活動を実施していますが、今後これらの活動に、より多くの住民に参加していただけるよう働きかけをしていきます。

③ 地域開発に関するトラブル防止対策

これまで西谷駅から新横浜駅までのトンネル工事、駅舎工事及び駅前再開発に伴うタワーマンション建設工事に関し、施工業者等と地域住民との間でトラブルらしいトラブルは一度もありませんでした。これは行政、施工業者、地域住民との連携が良かったことによるものであり、関係の皆さんに大変感謝しています。

駅前再開発地で現在空地になっている場所も、現時点では開発計画は公表されていませんが、いずれ建設工事が開始されると思っています。また、駅周辺地域においてマンション建設の地域開発が公表されており、今後いたるところで地域開発が行われる可能性があります。

町内会は、このような地域開発に際し、行政、施工業者と連携し、地域との間のトラブルを未然に防止するため、適切な対応を行っていきます。

3 町内会の当面の課題

① 町内会エリアの再編成

「駅前再開発エリア」の住民は、将来500世帯程度になると見込まれています。羽沢南町内会は現在でも会員数1,250世帯の大町内会であり、さらに「駅前再開発エリア」が加わった場合、一町内会で管理・運営していくことは極めて困難であります。

そのため、町内会から「駅前再開発エリア」を分離し、そのエリア住民により新町内会を立ち上げていただき、羽沢南町内会としてはその立上げの支援を行いたいと考えています。

② 町内会地区班の再編成

現在、町内会の運営は50の班編成により行われています。ところが町内会員の高齢化に伴い、担い手が少なくなり班運営が困難になっている地域や、一方、マンション建設等により住民が急増し、班運営に支障をきたしている地域があります。

町内会は、地域全体の班運営を円滑に推進するため、住民のご理解とご協力を得ながら、班編成の見直しを行います。

③ ホームページの開設

これまで長い間、町内会は広報手段として回覧板や掲示板を使用してきました。町内会活動を円滑に推進していくためには、情報の取得や共有は非常に重要であり、最近では回覧板や掲示板に加えてホームページを開設している町内会が多くなっています。

ホームページを開設することにより、町内会員は町内会活動の各種行事、イベント等の情報を効率的に取得し、共有できるようになります。また、ホームページはいつでも、どこでも、誰でもアクセスできるため、仕事で忙しい共働きの世帯でも利用しやすく、町内会未加入者に対しても町内会活動をPRすることにより、入会を促すことができるようになります。

4 むすび

少子高齢化、地域開発の進展により、今後とも町内会を取巻く環境は著しく変化していくものと思われます。町内会活動もこれらの環境の変化に柔軟に対応し、住民がこの地域に住んでいてほんとうに良かったと実感していただけるような活動を展開していきたいと考えております。今後とも皆様のより一層のご協力ご支援をお願いいたします。